



《彩漆杜若の園》
六角紫水、明治34年、大柿地区歴史資料館蔵



《螺鈿入梨子地蒔絵会席家具のうち飯椀》六角紫水、大正8年、個人蔵



《蓬萊雲鶴蒔絵書棚》六角紫水ほか、大正6年、宮内庁三の丸尚蔵館蔵
展示期間:11月18日～12月17日(予定)



《刀筆天部奏楽方盒》
六角紫水、昭和2年、
広島県立美術館蔵



《金胎蒔絵唐花文鉢》
六角紫水、昭和10年頃、
東京国立近代美術館蔵



《鶯蒔絵棚》松田権六、昭和13年、広島県立美術館蔵

「国宝」を創った男



国宝《松喰鶴小唐櫃》平安時代、厳島神社蔵 ※六角紫水復元模写作品と並列展示します。



明治維新後の廃仏毀釈や欧化政策により日本の伝統的文化財は存亡の危機に瀕しました。これらの文化財を調査・保存し、国宝指定するため、明治30年制定の古社寺保存法のもと、中尊寺(岩手県)を皮切りに、厳島神社(広島県)や三徳山三仏寺(鳥取県)など、岡倉天心らとともに全国を奔走した一群の人々の中に、若き日の漆芸家・六角紫水がいました。

六角紫水(慶応3・1867年～昭和25・1950年)は瀬戸内海に浮かぶ能美島の大原村(現在の広島県江田島市大柿町)に生まれ、東京美術学校美術工芸科漆工部を第1期生として卒業して以来、東京美術学校教授、芸術院会員などを歴任し、わが国の近代漆芸史に大きな足跡を残しました。その業績は、わが国漆芸の、伝統技法の研究と継承、芸術性の向上や近代化、応用範囲の拡大と普及、文化財保護や学術研究など多岐にわたります。

本展では、六角紫水の代表作を初めとして、関連する作品・資料約200点を展示することにより、その業績を総合的に紹介するとともに、特に、日本におけるその草創期を切り開き、生涯に渡って情熱を傾けた、文化財の保存・継承活動～調査・研究・修復・模写、そして創造に至る過程～に焦点を当て、今や国宝・世界文化遺産として結実している日本文化を守りとおした気骨の人・六角紫水のメッセージを現代に伝えます。

◎ギャラリートーク

【日時】2008年11月21日(金)、11月28日(金)、12月5日(金)、
12月12日(金)、12月19日(金)、2009年1月9日(金)
それぞれ午前11時～

【講師】広島県立美術館学芸員

【場所】3階企画展示室内

【料金】無料(但し入館券が必要)

◎新春ロビーコンサート

【日時】2009年1月2日(金)、3日(土) 午後1時～2時(予定)

【場所】1階ロビー

◎講演会「探索・六角紫水」(広島県立美術館友の会共催)

【日時】2008年12月7日(日) 午後2時～

【講師】村上 勇(奥田元宋・小由女美術館 館長)

【料金】無料 申込不要【午後1時30分 受付開始、先着200名様】



■JR広島駅より約1km

■広島城より約400m

■市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車約20m

広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 Tel.082-221-6246 Fax.082-223-1444
<http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/>

【お問い合わせ】NHK広島放送局 <http://www.nhk.or.jp/hiroshima/>
Tel.082-504-5218 (平日午前9時30分～午後6時) Fax.082-504-5219

表:《理想界の図蒔絵手箱》(部分) 六角紫水、昭和4年、広島県立美術館蔵

六角紫水展